

# 平成24年度 ケア付き青森ねぶた じょっぱり隊

## ボランティア活動報告



青森県立保健大学地域連携・国際センター  
地域連携科委員会部会  
ケア付きねぶたプロジェクト

## 目 次

ケア付き青森ねぶたの紹介、実行委員会との共催	P 1
準備編	P 2
ボランティア当日編	P 5
ボランティア活動後	P 12
広報活動	P 13
学生の思い・学び	P 17
プロジェクト関連資料	P 28

本学がケア付き青森ねぶたじょっぱり隊のボランティア活動に積極的に取り組んで5年目となります。今年は地域連携科委員会に、教員7名で構成されるケア付きねぶたプロジェクトチームが発足しました。チームで取り組んだ平成24年度のボランティア活動を報告いたします。

## ケア付き青森ねぶたの紹介

1年生が入学すると、4月に開講される4学科合同授業「健康科学概論」の中で、ケア付き青森ねぶたじょっぱり隊の活動について紹介します。これから専門職としての知識や技能を学んでいく学生にとって、この活動を知ることがヒューマンケアを模索する上での原動力になると考えているからです。そして、ボランティア活動の実体験を通して、人として専門職として成長する貴重な機会につながることを願い、ケア付き青森ねぶたの活動を紹介しています。

近年では、本学がケア付き青森ねぶたじょっぱり隊のボランティア活動を積極的に支援していることを、入学前から知っている学生が増えてきました。そのような学生は、目的意識を持って楽しみにボランティア活動に参加しているようです。また、はじめて知ったという学生も、興味関心を持つ学生が多いようです。

**ヒューマンケアを提供できる人材育成**

ケア付きねぶたへのボランティア活動を通して、専門職としての知識や技術のみではなく、人間とは何かということに思いを巡らせ、病気や障害を持つ人々の心を感じ取り、人に対して思いやりと温かさを持って接することができるようになって欲しい。感動を味わい感性を磨くことで自分を育てて欲しい、と願っています。

学長 リボウイッツ・よし子  
平成21年12月1日 公立大学協会60周年 記念シンポジウム  
「障害者ねぶた」へのボランティア活動を通しての教育 より

対人援助とはなんだろう  
ヒューマンケアとは？  
看護とは何か  
生活を支えるとは？

## ケア付き青森ねぶたじょっぱり隊実行委員会との共催

ケア付き青森ねぶたは平成8年から始まり、全国から参加者を募り年齢や障害の枠を超え青森ねぶたに車いすのまま参加できるよう保健・医療・福祉の専門職と多くのボランティアによって運行され、これまで毎年本学教員10数名及び相当数の学生がボランティア参加してきています。保健・医療・福祉の専門職を志す本学の学生にとって、ケア付き青森ねぶたに参加し障害者や高齢者との交流及び介助を行うことは、貴重な体験であり極めて学習的意義があります。

このため、本学では平成20年度から大学組織として協力しています。地域連携科事業としてボランティア養成講座を開催し、保健医療福祉特殊講義Ⅰの単位認定科目とするとともに、学生がより積極的にボランティア活動を行うことができる環境を整えています。

## 準備

### 6月9日（土）：第1回ボランティア養成講座の開講

日 時：平成24年6月9日（土）

11時～12時

場 所：A111教室

参加学生：26名

内 容：講演・体験発表

① 講演

「ボランティアマインドとは」

講師：中村由美子 教授（看護学科）

② 体験発表

発表者：3名（食料班・ハネト班・備品班）

昨年までの体験内容と感想、今年参加する学生へのアドバイス等を伺いました。



ボランティアの基本的な姿勢・心構え、じょっぱり隊の具体的な活動内容等について理解を深めました。

平成24年度 第1回 ボランティア養成講座 参加学生数

	1年生	2年生	3年生	4年生	計
看護学科	6	1	0	0	7
理学療法学科	0	0	0	0	0
社会福祉学科	15	3	0	1	19
栄養学科	0	0	0	0	0
計	21	4	0	1	26

### 7月21日（土）：第2回ボランティア養成講座の開講

日 時：平成24年7月21日（土）11時～12時

場 所：B110教室

テーマ：「ケア付きねぶたじょっぱり隊の活動効果について」

講 師：平川 若菜 氏（高齢者総合福祉施設清風荘）

参加学生：56名



ケア付きねぶたの歴史や取り組み、ねぶた参加者の想いを  
知ることができ、みんなでじょっぱり隊を盛り上げていこうという意欲につながりました。  
また、養成講座終了後、じょっぱり隊参加についてのオリエンテーションを実施しました。

## 6月9日（土）～：ボランティア募集

第1回ボランティア養成講座実施後にチラシ配布や学内ポスター掲示などを行い、ボランティア募集を開始しました。6月19日には、全教職員に対して教職員ポータルサイトで周知をした他、教職員会議で参加を呼びかけたり、ケア付きねぶたプロジェクト委員から各学科長を通じてボランティア参加の案内をしました。結果、7月6日のボランティア募集締切り時には、学生約60名、教職員約20名から申し込みがありました。

## 医師・看護師の派遣

ケア付き青森ねぶた実行委員会では、医療班、ケア班の医師・看護師の確保に毎年尽力しています。しかし、各医療機関でも医師・看護師不足である昨今、ボランティア協力もままならないのが現状のようです。

そこで、実行委員会からの要望により、本学の教員が医師・看護師として協力しています。今年度は、医師として神成一哉教授（理学療法学科）、看護師として小池祥太郎助教（看護学科）にご協力いただきました。

## 7月25日（水）：定例記者発表

本学が開催する定例記者発表で、ケア付きねぶた出陣について取材記者の方々にPRしました。ボランティア養成講座を実施して学生ボランティアを募っていることや、この時点でのボランティア参加学生・教職員数を発表しました。特に今年度は、実行委員会初めての試みでプライマリー・ケアを実践することが目玉となりました。

## ボランティアのしおり作成

ボランティア学生が不安なく活動に臨めるよう、7月頃からボランティアのしおり作成に取り掛かりました。実行委員会が学生に求める当日の動きなどを確認し、全体スケジュールや班ごとの心得・動きが確認できるようなものに仕上がりました。7月21日の直前オリエンテーションで配布し、説明をするとともに、活動前に必ずすべてに目を通すよう学生にお願いしました。

## 7月21日（土）：直前オリエンテーション

7月21日(土)12時～12時30分に直前オリエンテーションを行いました。第2回ボランティア養成講座終了後の時間を活用したところ、ボランティア活動に参加するほぼ全ての学生が受講しました。直前オリエンテーションでは、ボランティアのしおりを配布し、それぞれの役割および留意点について説明し、班ごとの代表者を決めました。また、当日着用するTシャツ、シールを配布した他、ハネト班の学生は、昨年参加した3年生からオリジナル振付のレクチャーを受けました。清風荘スタッフが学生からの質問等にお答えくださり、本番に向けて自分の活動内容をイメージすることができました。





### **7月27日（金）：事前説明会**

7月27日（金）17時～18時にA棟3階地域実習室で事前説明会を行いました。この説明会には学生だけではなく、ボランティア活動を行う教職員も参加しました。最終的なスケジュール確認や伝達事項の説明を行ったあとは、班ごとの顔合わせと打ち合わせを行いました。ボランティアを目前に、真剣な面持ちで臨んでいました。ハネト班は振り付けの最終チェックと隊列の確認を行いました。また、プライマリー・ケアを担当する学生には、担当の参加者情報を伝えました。このことにより、事前に身体状況や生活状況をアセスメントして当日を迎えることができました。

### **7月27日（金）：着付け指導**

着付け指導講師：2名

参加者：約10名

持参物：各自ねぶた用ゆかた一式

まず、指導講師が着付け方法について手本を見せ、その後、実際に2人1組で着付けの練習をしました。特に、たすきの結び方を繰り返し学びました（それ以外にもいろいろな結び方があるようです）。また、次年度に向けて着付け指導をビデオ撮影したため、来年に活かします。

### **7月12日（木）：ラジオ出演**

実行委員会のご厚意で、FM青森の「ラジMOTT（モット）」に出演しました（放送日：7月12日（木）17時22分～32分）。出演は、昨年ボランティア参加した工藤若子さん（看護学科4年）、小山内さおりさん（同）、吉田真利子さん（栄養学科2年）、星佳織さん（同）の4人です。4人とも緊張を見せず、アナウンサーのアドリブにも流暢に受け答えしていました。おかげで、青森市内や本学からのボランティア参加者が増えたのではないのでしょうか。



## ボランティア当日

### 8月2日（木）：サークル発表

発表日が前期試験終了直後で練習時間の確保も大変な中、ポムジュール・ウインド・アンサンブル・オーケストラ（青森市内大学の吹奏楽団で、本学吹奏楽サークルも加盟しています）が発表を引き受けてくれました。参加者さんが続々と到着し夕方から歓迎レセプションが始まると、趣向を凝らしたアトラクションが行われ、吹奏楽サークルの皆さんも数曲を演奏してくれて大いに盛り上がりました。



### 8月2日（木）：設営

午前中は物品の搬入や会場の設営を行いました。車いすやベッドなど大型の荷物や、浴衣や鈴など細々とした大量の荷物が運び込まれます。学生は、トラック、エレベーター、会場と別れて配置され、率先して身体を動かしていました。また、リピーター学生は昨年の様子をよく理解できており、実行委員会リーダーから信頼されてとてもがんばっていました。当日に役割が変更されたり、新たな役割が追加されたりなどの突発的な事態にも臨機応変に対応することができていました。

### 8月2日（木）：お出迎え

運行班を中心に、約 30 名の学生が新青森駅で新幹線から下車した参加者さんとそのご家族、ボランティアの方々のお出迎えをしました。新幹線の到着時間になると、学生の関心は改札口を通る方々に集中し、参加者さんだと分かると、ケア付き青森ねぶたののぼりをはためかせ、「ようこそ、ようこそ」と一斉に声を掛けました。歓迎を受けた参加者さんやご家族は、皆、笑顔で返答し、このねぶた祭りを心待ちにしていた様子がかがわれました。最後の参加者さんがケア班ボランティアと一緒にホテルへ向かった後、学生全員、バスやタクシーでホテルアネックスに向かい歓迎レセプションに参加しました。

## 8月2日（木）：歓迎レセプション

設営班がレセプション会場の準備を終えたころから、参加者さんたちが続々と到着しました。学生ボランティアも協力して青森の食材をふんだんに使った料理がふるまわれると、参加者さんたちは長旅の疲れも忘れるのか、楽しそうに召し上がっていました。食事がひと段落すると、吹奏楽サークルをはじめとしたアトラクションが行われ、大いに盛り上がっていました。ねぶたが出陣して暗くなる頃には参加者さんは沿道に移動し、学生ボランティアたちと一緒に迫力あるねぶたを鑑賞していました。学生ボランティアの中にも、初めてねぶたを鑑賞する学生が多く、楽しんでいただようです。







### **8月3日（金）：運行班**

運行班は夜からが本番です。しかし、日中もまた大事な役割があります。担当する参加者さんに付き添い、祭りを安全に楽しむお手伝いをしました。食事や行動を共にする中で、コミュニケーションの難しさを実感したようです。また、参加者さんによって行動スケジュールに違いがあり、とまどう場面も多かったようです。

夜は、ハネトや給水担当等で祭りを盛り上げました。ハネトはかなりハードにはねたり踊ったりしましたが、全員がゴールまでたどりつき、達成感を得ることができました。

### **8月3日（金）：備品班**

備品班の最大のイベントは、ねぶた衣装の着替えがスムーズに進むよう、荷物の受け渡しを確実にするという事です。学生は、備品班ボランティアが前日に準備してくれた参加者名の荷札を確認し、風呂敷に包まれたねぶた衣装を渡し、私服を回収していました。初めての参加した学生でも、当日朝に備品班リーダーから、受け渡して起こりうるトラブルの説明があったことや、実際に荷物の受け渡しについてシミュレーションしたことで問題なく実施できました。しかし、ねぶた終了後、ボランティア学生の着替え会場が変更になったことや、参加者さんと時間差で早目に到着する予定であった学生たちが同時刻に一斉に帰ってきたことで、混乱した部分もありました。

### **8月3日（金）：着付け班**

当初、学生に着付けを見てもらいながら自分で着てもらう方法を試みましたが、無理な方法であることが判明しました。しかし、着付け班ボランティアの方々が手伝って下さったので時間内に着付けを終了できました。したがって、短時間で着付けを行うにはボランティアの人数が必要であり、着付け方法についてもある程度の統一が必要です。また、ゆかた一式の内容によっても着付け方法が変わるので、臨機応変に行うしかないと思います。

### **8月3日（金）：食料班**

食料班には14名の学生が参加しました。カレーの食材を炒めて盛り付けをしたり、600個のおにぎりを握ったり、運行から帰ってきた方の夕飯を盛り付けたりしました。みんなイキキと、とくに初参加となる1年生は戸惑いつつも一生懸命に役割を果たしていました。ボランティアとして参加されていた齋藤長徳講師（栄養学科）のプチ調理指導に感激する学生も見られました。次第に他のボランティアの方々とも仲良くなり、和気あいあいと調理をしていました。他のボランティアで参加された方々には親切に接していただき、ありがたいなと思いました。

### **8月3日（金）：設営班**

設営班の役割は、じょっぱり隊のすべてのイベントがスムーズに進むよう、各会場の設営と設営に必要な備品の運搬および撤収を速やかに行うことです。次のイベント開始までの限られた時間内に作業を完了させる必要がある中で、スケジュールや会場が状況に応じて変更するため、その場での指示に臨機応変に対応することが求められていましたが、学生の立場では全体の動きを把握して対応することが難しい面もありました。しかしその分、リーダーからの指示内容や作業後の確認を確実に行うことを心がけ、スタッフと声を掛け合って協力して行うことの重要性を実感しながら活動しました。

### **8月3日（金）：医療班**

朝に問診および体温、脈拍、血圧などのバイタルサインを測定し、参加者の体調を確認しました。その後、参加者の中でも医療的なケアが必要な方に付き添い、必要時、吸引や経管栄養、食事介助、排泄ケアなどを実施して、ねぶた運行までのイベント中にも参加者さんの体調維持に努めました。普段はご家族が行っているケアを担当者が専任で行うので、ご家族の中にはビール等のアルコールを楽しむ方もおり、リラックスして過ごされていました（看護学科 助教 小池祥太郎）。

### **8月3日（金）：ケア班**

ケア班は、参加者さんの案内やトイレ・昼食介助、写真を撮る際の誘導など多岐に渡ります。会場で鈴や花笠を付け、食べ物や飲み物を配布するなど身の回りのお世話をしました。運行開始後は待機者と付添者に分かれ、付添者は具合が悪くなった参加者さんを歩道側に連れ出せるよう留意しました。運行終了後は入浴班と清拭班に分かれ清潔援助をし、ご家族の部屋にお連れし解散となりました。8時30分～24時頃までの業務でした。人数

配分や時間配分など、打ち合わせをもう少しした方がケア班の動きも良くなると思います。必要なのかもしれませんが、拘束時間が長すぎるため体力的に厳しい思いはあります（看護学科 助手 伊藤耕嗣）。









## ボランティア学生数の推移（人）

	学生	教職員	計
平成 20 年度	49	8	57
平成 21 年度	82	8	90
平成 22 年度	38	16	54
平成 23 年度	72	23	95
平成 24 年度	67	29	96

## ボランティア活動内容

種類	主な役割
<b>運行班</b> 通称: 熱く燃え隊	ねぶた運行の練習や本番で、隊の中心として指揮をとる役割。また、参加者と共に、ハネトとして車椅子を押して参加する役割をします。
<b>医療班</b> 通称: 命預け隊	事前に、参加者の健康チェック・バイタル測定をし、安心して参加できるよう目配りをする役割をします。
<b>ケア班(班担当班)</b> 通称: 仲良くし隊	衣装の着付け時や車両に乗車時等、参加者やボランティアの皆様を誘導する役割をします。
<b>食料班</b> 通称: ごちそうし隊	皆様の食事、昼食や打ち上げの食事準備やテーブルセッティング、配膳等の役割をします。
<b>備品班</b> 通称: なんでも揃え隊	ねぶたの衣装や参加者の所持品、荷物等の管理・引渡しをします。
<b>設営班</b> 通称: 重いもの持ち隊	待機会場の設営、および会場内での誘導等の役割をします。
<b>着付け班</b> 通称: 上手に着せ隊	参加者やハネトボランティアに、ねぶた衣装の着付けをお手伝いします。

## ボランティア活動後

### 活動を振り返る会

ケア付きねぶたでのボランティア体験を自分だけのもの納得させてしまうのではなく、そこで生じた疑問やうまくできたこと、できなかったこと、何のためにやっていたのかわからなかったこと、感動したことなど、体験したすべてに対して参加した学生みんなで共有し、意味づけをすることで今後のボランティア活動を発展させたいというのが本会のねらいです。



今年度初めての実施で、夏季休業中の前期試験結果公開日に開催しましたが、実習中や帰省先から戻れない等の欠席があり、66名中33名の参加となりました。グループ編成は、班が偏らないよう、運行班、備品班、食料班、設営班の各班から一人以上配置し、5、6人編成8グループとしました。グループワークの視点は、①班別活動と、活動を通して感じたこと、参加者（家族を含む）のねぶた参加の思い、②ボランティア活動としての“じょっぱり隊”について考えたこと（意義、困ったこと、考えられる改善策、他）、③活動を通して学んだこと（ボランティアについて、障害を抱えた人々について、他）とし、80分間のグループワークの後、各グループの発表と意見交換をしました。

発表では、自分たち自身をもっと積極的にボランティアメンバーや参加者さんとコミュニケーションをとるべきであった等の反省の他に、学生ボランティアを募集するための方法や、運行中の安全を図るための方法、付き添い家族の労をねぎらうための企画についてなど、体制に関する内容にも意見がおよび、今後の活動を進めていく上で充実した会となりました。

本会に参加できなかった学生については、グループワークと同じ視点でレポートをまとめて提出してもらい、自分自身のボランティア活動について熟考する機会としました。









# 広報活動



## ボランティア募集



ケア付き青森ねぶた  
じよつぱり隊

八月三日(金)出陣



もっと広がれ大きな輪に！  
7月6日(金)締切

千葉敦子(看護学科) 福井幸子(看護学科) 本間ともみ(看護学科)  
長門五城(理学療法学科) 長谷川真理子(社会福祉学科) 加賀谷真紀(社会福祉学科)  
清水亮(栄養学科) 花田理江(地域連携推進課)

- ◇ 申込方法 ◇ 申込用紙を地域連携推進課まで提出してください。
- ◇ お問合せ ◇ 地域連携科委員会 ケア付きねぶたプロジェクト



## 第17回ケア付き青森ねぶた“じょっぱり隊” 8月3日（金）出陣

### I. ケア付き青森ねぶた“じょっぱり隊”

ケア付き青森ねぶた“じょっぱり隊”の活動は、今年度で第17回を迎えます。年齢や障害の枠を超え日本の火祭り“青森ねぶた”に誰もが自分らしく祭りを楽しめるように、介護・医療・福祉の専門職と多くのボランティアによって、全国の障害のある方々のねぶたへの参加を支援します。

第17回テーマ『東北復興元年 燃え上がりれじょっぱり隊 心ひとつに さらに前進 輝く明日を目指して』

出陣：8月3日（金）

主催：ケア付き青森ねぶた“じょっぱり隊”実行委員会

共催：青森県立保健大学

### II. ボランティア養成講座

本学では、ケア付き青森ねぶたに参加する学生に、ボランティア養成講座（全2回）を受講してもらいます。本講座は保健医療福祉特設講座Ⅰの単位認定講座とし、大学をあげてこのボランティア活動をサポートしています。

ボランティアマインドを有する学生が多い本学ですが、いざ行動となると、少しの勇気ときっかけ、知識が必要です。そのため、ボランティアとは何か、ケア付きねぶたの活動概要・意義やねぶたの文化や伝統などについて学びます。

第1回ボランティア養成講座 6月23日（土）

第2回ボランティア養成講座 7月21日（土）

### III. 本学のボランティア参加者

学生ボランティア 65名、教職員 19人、合計 84人が参加します。この他、学生ボランティアが事故なく活動できるよう教職員8名によるプロジェクトを5月に発足し、サポートしています。

### IV. プライマリーケア

今年度、新たな取組みとして、プライマリーケアを実施します。参加者（障害者）、付添いのご家族、ボランティア経験者、本学学生ボランティア（進行班30名）がチームとなり、参加者の情報を共有し、参加者をあらゆる角度から見守ることで確かなサポートを目指します。

チームは、参加者の到着（10：00）から解散（21：00）まで共に行動します。参加者は様々な障壁があるため、学生ボランティアはあらかじめ参加者の状態に関する情報を学習して臨みます。

問い合わせ\*\*\*\*\*

青森県立保健大学

〒030-8606 青森市浜館町58-1

TEL:017-766-4066 FAX:017-766-2021

担当：地域連携科委員長 藤田裕三（兼社会貢献担当理事）

ケア付きねぶたプロジェクト長 千葉敦子

（事務局担当：地域連携推進課 花田）

\*\*\*\*\*

## FM 青森 ラジMOTT (モット) 放送概要

アナ「この時間は青森県立保健大学の学生4人をスタジオに迎えました。こんにちは」

学生「「「「こんにちは」」」」

アナ「青森県立保健大学は第13回ケア付き青森ねぶたじょっぱり隊から、大学をあげて協力しています。今年もケア付き青森ねぶたじょっぱり隊にボランティア参加する学生の皆さんをお迎えしました。まずは自己紹介をお願いします」

学生「自己紹介」

アナ「ケア付き青森ねぶたじょっぱり隊については、先だって事務局の平内町清風荘の長根祐子さんにボランティア募集のお知らせをしていただきました。お年を召した方でも障害のある方でも、日本を代表する火祭り「青森ねぶた祭り」に車いすで参加してもらおうと始まって、今年で17回目になります。そのために医療面でのバックアップをはじめ、運行で車いすを押したり参加者の楽しみの一つである食事を作ったり写真撮影をしたり、集合場所の本部設置の力仕事をしたり、ボランティア沢山必要なんですよな？」

学生「そうなんです。」

アナ「青森県立保健大学では、ボランティア養成講座の授業を通してケア付き青森ねぶたじょっぱり隊のことを学んでボランティアに参加するんですよ？」

学生「はい、青森県立保健大学にはボランティアマインドを有する学生がとても多いと思います。ただ、いざ行動するとなると少しの勇気ときっかけと知識が必要となります。その為に、ボランティアマインドとは何か、ケア付きねぶたじょっぱり隊の活動概要や意義などを学ぶために、ボランティア活動前に2回ボランティア養成講座を行っています。他にも車いすの押し方を教わったり、ボランティアの心得を再確認したり、また本学オリジナルの跳ね方を練習したりします。」

アナ「皆さんボランティア経験があるということですが、工藤さんは4年生で1番経験が豊富なのかな？」

学生「私は4年間で2回参加しています。1年生の時にハネトと設営班。3年生の時に記録班として撮影をしました。」

アナ「それでは同じく4年生の小山内さんは？」

学生「私も工藤さんと同じで、1年生の時に設営班とハネトを。昨年は記録班で参加しました。」

アナ「中では何が一番大変でしたか？」

学生「参加者さんと触れ合う時間が記録班は少ないと思われがちですが、意外に触れ合う時間が多く持っていて大変でしたが参加者の方と一緒に楽しみながら参加出来たのでそんなに苦には思わずできました。」

アナ「それから2年生の星さんは？昨年やったんだ？」

学生「はい、前日に設営班で、当日はハネトで参加者の方々と跳ねました。学生2人と参加者1人でグループを組んで、車椅子を押し学生と前の方で踊る学生とで分けられ、私は跳ねるほうだったので。」

アナ「星さん、元気そうだもんねー（笑）」

学生「はい（笑）4kmの道のりを跳ねました。」

アナ「吉田さんも2年生ということで昨年参加されたんですよ。」

学生「はい、前日は食料班で、当日はハネトとして参加しました。」

アナ「食料班、大事ですよな！」

学生「参加される方々以外に、ボランティアで裏方の仕事を担当している方の食事も提供しました。」

アナ「かなりの量を作るわけじゃない？」

吉田「そうですね。あんなに大量の玉ねぎを切ったのは初めてでした。」

アナ「そうすると、さっき工藤さんが話してくれたみたいに、授業で座学をするわけですが、実際に参加してみると、その座学のことが良く分かったり、あるいは座学では味わえないことが分かるわけですね。」

学生「そうですね、やっぱり座学だけだと、イメージは湧きやすいんですけど、やってみなければわからないことが沢山あるんだなっていうことをボランティアを通じて学びました。」

アナ「今年はどうですか？工藤さんは？」

学生「昨年、記録班だったんですが、引き続き記録班に参加しようと思っています。」

アナ「みなさんの笑顔とか、ラッセラーって叫んでるところとか撮影したりするの？」

学生「もちろんですが、設営班や食料班だったり、ケア付きねぶたに関わる色々な班でどのような仕事をしているのかっていうのを記録していきます。去年は色々な仕事を見れたので楽しかったです。」

アナ「いわゆる、新聞記者みたいな感じですよ。」

学生「そうですね。張り込みというか（笑）色々ついてまわって撮影しました。」

アナ「小山内さんは今年はどうなされます？」

学生「今年はまだ設営とハネットに参加できればと思っています。」

アナ「女性の感覚や、保健大生の感性、これまで学んできたことがボランティアで役立ったことは？」

学生「大学生になってから、疾患のある方や障害のある方がどういう風に過ごされているのか学んできて、1年生の時はまだ実習に出ていなかったなのでその実際を見ることができていなくて、このボランティアを通して、初めて障害のある方がどのように過ごしているのかっていうのを知ることができましたね。」

アナ「少し横たわった状態で参加されてる方もいらっしゃるんですよ。」

学生「そうですね。参加者さんも、そのご家族の方も生き生きとして、本当に楽しんでいらっしやいます。」

アナ「星さんは今年？」

学生「食料班として、栄養学科で食事について学んで更に興味が沸いたので、食事面でサポートしたいです。昨年はハネットに参加の方との交流が出来なかったんで、今年は積極的にお話したいと思います。」

アナ「ハネットでお一人の方についたということで、今度はいろんな人と交流したいっていうことね？」

学生「そうですね。」

アナ「同じく2年生の吉田さんは？」

学生「私も昨年と同じく食料班で参加したいと思います。飲み込むことが困難な人の為に柔らかくした食事が出されているのですが、見た目にかたまっていて、そのままの状態を提供されていたのですが、去年初めて参加して、きちんと見ることが出来なかったの今年はちゃんと見たいと思います。」

アナ「ソフト食と言われているものですよ。食べても美味しいんだよね。」

学生「はい、あと青森の食材のホタテを使った押し寿司や杏子の入ったおにぎりなどを振舞ったのですが、今年も参加者の方々に私たちの作った食事を食べて頂いて、青森を知ってもらいたいと思います。」

アナ「それぞれ皆さんに目的があって今回のケア付き青森ねぶたじょっぱり隊に参加されるようですね。参加者のみなさん体調を崩すことなく、青森ねぶた祭りを存分に楽しんでもらいたいですね。」

4人「「「はい」」」」

アナ「青森県立保健大学を代表してきてくださったのは」

学生（各自自己紹介）「でした」

アナ「今日はどうもありがとうございました」

学生「ありがとうございました！」



# 学生の思い・学び

## ボランティア申込み時の学生の思い（申込み順）

学 科	学年	コメント
栄養	1	年に一度のお祭りを誰もが楽しめるようにサポートしたいと思っています。
栄養	1	入学時から参加したいと考えておりました。食事作りのボランティアからじょっぱり隊に参加したいです。
社会福祉	4	高齢者の余暇活動を充実させるための活動に興味がある。3年前にハネトとして参加したが、今回は裏方として協力したい。
社会福祉	1	たくさんの人と交流することができたらいいと思う。
社会福祉	1	ねぶた参加が初めてなのでとても楽しみ。参加者と一緒に楽しみ、自分を成長させたい。
社会福祉	1	初めてのねぶた祭りのボランティアに参加することで、自分にとって価値のある経験が出来ると思います。わからないことばかりだと思いますが、自分に出来る最高の対応で参加者の方々へ接したいです。
社会福祉	1	県外出身なので、ねぶた祭りの参加も初めてですが、参加者の方と一緒に楽しみながらできたらいいなと思っています。また、自分のできる事を一生懸命やりたいと思います。
社会福祉	4	1年からずっと参加しているので、学生最後の年として有終の美を飾りたい。
看護	2	今回のボランティアに参加して、幅広い世代の人と交流を深めたいです。
看護	3	毎年活動を見ていて気になっていました。参加するのは楽しみです！！
看護	2	皆さんのお役にたてるよう、頑張りたいです。
社会福祉	1	ねぶたをこの目で見るのは初めてのため、参加者さんと一緒に楽しんでいきたいと思っている。
看護	3	気付いたら大学3年になっていて、ボランティアの一つにも参加していないと思い、せめて一つボランティアに参加したいと思い、日程のとれるこのボランティアに申し出ました。
栄養	1	参加者の皆さんとねぶた祭りを一緒に楽しみ、さらにボランティアの経験を今後の学生生活に生かしたい。
栄養	1	ケアつきねぶたは、入学前に初めてパンフを見た時からやってみたいと思っていました。ボランティアの経験は未熟ですが、是非参加したいです。
社会福祉	1	参加者に残念な思いをさせないように、精一杯頑張ります。
社会福祉	1	初参加で不安も多いですが全力で頑張りたいです！
社会福祉	1	初めてのケア付きねぶたですが、積極的に頑張りたいと思います。
社会福祉	1	はじめての参加だが、臆することせず、積極的に取り組みたい。
看護	2	去年も参加してとても良い経験だったので今年も頑張ります。

学 科	学年	コメント
看護	2	昨年も参加し、とても貴重な体験をすることができたので今年もぜひ参加したいです。いろいろな人と出会って笑顔がたくさん見たいです。
看護	2	参加者の方々が元気に参加できるように、食事を作ることで援助したいと思っています。自分の思い出にもしたいと思います。
看護	2	前回は参加して、とても楽しかったので今回は友人も誘って参加することに決めました。参加者の皆さんと相互に思い出を作りあえたら良いなと思います。
看護	1	このボランティアには大変興味があって入学したので、とても楽しみ。初めてで不安もあるが、自分の活動が少しでも力になれば、自主的に参加していきたい。青森ねぶたという文化を知ると共に、1人ではなく大勢で盛り上げ、楽しむ感覚を味わってみたい。
看護	2	去年に引き続き、今年も頑張ります！
看護	2	去年も参加して、とても楽しかったし良い経験ができたので、今年もぜひ参加したいと思った。参加者さんたちを裏から支えることができるように頑張りたい。
看護	1	ねぶたを見るのは初めてで、見るだけじゃなく参加したいと思った。また、参加者の方々と交流することで、自分自身の成長にもつながると思った。
看護	1	ねぶたに参加するのは初めてですが参加者さん達と触れ合い、貴重な体験が出来たらいいなと思います。また、楽しみたいです。
社会福祉	3	今回で3回目の参加になりますが、今までとは違う役割で参加するので他の学生を協力しながら、参加者の方々に楽しんでいただけるようにがんばりたいと思います。
社会福祉	3	ケア付き青森ねぶたのボランティアに参加するのは2回目なので、前回の参加以上に積極的に活動したい。
看護	3	一生懸命頑張ります。
看護	3	利用者と関わりを持っていきたいです。昨年の経験を生かして頑張ります。
看護	3	初めて参加します。参加者さんに楽しんでもらえるように頑張りたいです。自分も楽しみたいです。
社会福祉	1	参加者の方と楽しく過ごしたいです。がんばります！！
看護	2	いつもと違う視点からねぶたを見られる、いい機会になると思います。たくさん参加者と交流し、自分の経験として学びたいです。
看護	2	参加者の気持ちを考えながら接することを目標に、参加者の方々と一緒にねぶたを楽しめたらと思います。初めての参加になるので分からないことがたくさんありますが、笑顔で元気に頑張りたいと思います。
看護	2	みんなが気持ちよくねぶたを楽しめるようにしたい！！
看護	2	私は青森市出身で今までもねぶた祭りに参加してきましたが、今年はじょっぱり隊の一員として貴重な体験をしたいと思い志願しました。
看護	1	初めてねぶたに参加して、様々な人達と関わることで祭りを全員でつくりあげるといふ一体感を皆で共有したい。

学 科	学年	コメント
理学療法	1	保健大に入学する前から興味があって、やりたいと思っていたボランティアでした。青森ねぶた祭に参加するのは初めてですが、参加者の皆さんと一緒に楽しむことができたと思っています。おもてなしの心を忘れず、頑張りたいです。
理学療法	1	どんな役割でも一生懸命がんばりたいと思います。
理学療法	1	頑張ります。
栄養	1	元気の源となる食事準備に関わり、エネルギーをつけてねぶたをより素晴らしいものにしてもらえるようお手伝いしたい。
栄養	1	おいしい食事を作り、じょっぱり隊を盛り上げたいです。
大学院	2	ねぶた参加もハネトも初めてです。車椅子で参加される方のお役に立ちたいと思います。楽しいねぶたを演出してゆきたいと思います。よろしくお願い致します。
看護	1	今回のような大規模なボランティア活動への参加は初めてですが、車椅子での参加をする方と一緒に楽しみたいです。
看護	1	以前ケア付きの紹介を聞いて学生も参加者の方もみな笑顔でぜひ参加してみたいと思いました!初めてのねぶた、ボランティアで不安だらけですが、楽しんで楽しませることができたらなと思います。
看護	3	今回のボランティアに参加して、たくさんの人とふれあっているいろんなことを勉強していきたいと思っています。
看護	3	得意の料理を活かしてボランティアをして、いろんなことを勉強していきたいと思っています。
社会福祉	4	参加しよう参加しようと思いつけてあっという間に最終学年になってしまいました…。今年は念願のじょっぱり隊に参加し、楽しみたいです！
社会福祉	4	1年生の頃から参加してみたいなと思っていましたが、実習などがあってなかなか参加できませんでした。今年がラストチャンスだと思い、申込みしました。ボランティアの皆さんと協力しながら参加者を全力でサポートしていきたいです。
栄養	4	在学最終年の活動となるので、今までの経験を生かし、運営を補助する一員として役立ちたいと考えています。
看護	3	ねぶた祭りという青森の伝統あるお祭りに、できるだけ多くの人に楽しんでもらいたいと思って、お手伝いしたいと思いました。

## 平成24年度 第1回ボランティア養成講座 参加学生感想一覧

- ・私は何年も前から、このケア付きねぶたの存在は知っていた。興味をもっていたが、まさか自分も参加できる機会にめぐまれるとは思っていなかった。保健大に入学できたおかげだ。大学には、いろいろな経験ができるチャンスがたくさんある。在学中に楽しみながら、たくさんのことを学びたい。
- ・今回の講義に参加して、ボランティアとはただ指示された事のみを行うだけではないことを知り、改めて考えさせられた。自分の意志で動き、「お互いに楽しむ」とは思っていなかったので、とても楽しみになった。体調管理に気をつけて、盛り上げる一員として頑張りたいと思った。
- ・今回の講座に参加して、ボランティアはみんなに笑顔をもたらすものだということがわかった。さらにボランティアは、多くの人の支えや協力から成り立っているものなので、人とのつながりを強く実感できるものだと思う。そして私もぜひケア付き青森ねぶたじょっぱり隊に参加したい。
- ・今日、中村先生と先輩の話を聞いて、ボランティアはとても深いと感じました。ボランティアは、ただやりたいという気持ちだけでは成り立つことが難しいということがよくわかりました。ボランティアに参加するなら参加するで、しっかりとした知識や技術を身につけ、体調を整えて、思いやりをもった活動ができるように努めたいと感じました。今日、お話を聞いてさらにボランティア、ケア付きねぶたへの興味が高まりました。
- ・私は今まで様々なボランティアをしてきましたが、「何かしてあげたい」という思いが一方的すぎたような気がします。今日の講演を聞いて、ボランティアはGIVE&TAKEだということを学び、これからボランティアをするにあたって、しっかり行わなければいけないと思いました。また、先輩方から実際に体験した感想などを聞き、大変だとは思いましたが、それ以上に楽しそうだと思いました。是非、参加したいです。
- ・あまり知識がなくケア付きねぶたに参加したいと思っていたので、様々な班があること、どのように動くのか、など知ることができてよかった。さらに、参加したいと思えた。ハネトをしたいとも思っていたが、裏方もいいのかもしれない。とりあえず役に立ちたいです。
- ・去年も出たけど、今年もじょっぱり隊に出たいと思った。
- ・今日、講演を聞いて、ボランティアに参加するにあたって大切なことや、気をつけなければならないことを学びました。また、先輩のお話を聞いて、それぞれどのような仕事をしていたのか、よくわかりました。聞いたお話を参考に、自分のやりたいことを考えていきたいです。
- ・中村先生の話と3人の先輩の話を聞いてケア付きねぶたに参加したい気持ちが強くなりました。どんなボランティアでも楽しんでやりたいと思いました。
- ・ボランティアで気をつけること、また、ケア付きねぶたに実際参加した先輩のお話を聞いて、興味から絶対参加したいという気持ちにかわった。大変ではあるだろうが、がんばりたい。
- ・ケア付きねぶた＝ハネトというイメージがあったけど、体験談を聞いて、ハネト以外にたくさんの仕事があり、多くの方々が支え合って成り立っていることがわかりました。私もそのなかの1人となって、ねぶたを盛り上げていきたいです。
- ・今回の講座を聞いて、自ら進んでやることと、相手と対等な立場でボランティアすることが大切だとわかった。また、じょっぱり隊の体験談を聞いて参加してみたいと思った。今回の話を聞いて良かったです。
- ・今回のボランティア養成講座を通して、ボランティアの心がまえを学び、これからの自分のボランティア活動に生かしていきたいと思った。また、先輩方からのケア付きねぶたの体験を聞き、参加するのが楽しそうだと思った。できるなら参加をしたい。



・私は保健大に入る前からケア付きねぶたに興味をもっていました。保健大で福祉について学びたいというのが保健大を志望した理由ですが、ケア付きねぶたに参加したいというのも、理由の1つでした。先輩達の体験談を聞いて、食料班もハネトも備品班もそれぞれやりがいがあり、得るものも大きいことがわかりました。どんな役割でも一生懸命取り組み、責任をもって参加したいと思いました。

・周りを見る心のゆとりをもつことが大切であるが、自分で意識して見ようとしないと見えてこないものであると考えるので、日頃から周りを気づかいながら生活していきたい。また、アランの幸福論の話をしていて、嵐の相葉君も同じように「楽しいから笑ってるんじゃないで、オレは笑っていると楽しくなると思うから笑ってる」と言っていたのが思い出された。

・以前のヒューマンケア特殊講義よりも、ボランティアについての基礎的な心がまえが話されていて参考になりました。また、先輩方の体験発表も勉強になりました。コミュニケーションが苦手だと学ぶこともできるのなら、コミュニケーションを学ぶことも可能かと思います。ボランティア活動を通して人の笑顔に触れ、互いに幸福を感じることができたらいいと思いました。

・最初、ボランティアには消極的だったけど、講義と体験を聞いて、自分も楽しみたいと思った。それに、普段ではできない貴重な体験も無料でできるという点も魅力的だった。これからケア付きねぶたのボランティアを精力的に頑張りたい。

・じょっぱり隊に参加したいという意欲がますますわいた。ボランティアの精神に基づいて、活動に参加したいと思った。

・先生のお話、先輩のお話を聞いて、より興味をもちました。どういことをするのか、どうやったら楽しくコミュニケーションがとれるのか、まだまだわからないことだらけですが、頑張りたいと思いました。

・今回の講義を受講して、より一層ケア付きねぶたに参加したいという気持ちが強まりました。先輩方の体験談を聞き、仕事の内容や参加して良かったことを詳しく話して頂き、ハネト班に興味をもちました。初対面の人と話すのは少し心配ですが、参加者の方に楽しんでもらえるように頑張りたいと思いました。

・今日の講義を通してボランティアの定義やボランティアの精神、ボランティアに必要なことがよくわかった。また、ねぶた祭りのじょっぱり隊の班ごとの活動内容について理解できた。ねぶた祭り自体も見たことがないので、ケア付きねぶたとして参加できることを楽しみにしているので、ぜひ参加したいです。

・私は市内出身ではないので、ねぶたに参加したことも見たこともなかった。しかし、青森市内に住むようになったからには参加してみたいと思う。中村先生の講演にもあったように対等な立場で参加者さんとともに楽しみたい。

・ボランティアは自分の意志で行うことが大事であるということを改めて確認できました。今までボランティアをいくつかやってきましたが、震災ボランティアには参加したことがなく、また、ボランティアマインドをあまり意識せず行ってきたので、今後は意識して臨みたいと思いました。

・ボランティアをする際に、自主性・主体性が非常に重要だということは知っていたが、それと同時に自分の思いだけでなく、ボランティアマインドをしっかり守ることが、自分も相手も笑顔になれるボランティアのあり方だということを知った。思いやりを持ってボランティアをすることがいかに大切か理解できたと思う。

・今日の講座を聞いて、今年もボランティアに参加したいと思いました。他の班の活動内容もわかったので、今年は去年と違う班で参加してみたいと思いました。

・日にちの都合で出れないのですが、じょっぱり隊で行っている活動を知ることができてよかったです。

## 学生の学び～ボランティア参加後のレポートから



【学生の感想を原文のままご紹介いたします】抜粋

(運行班) …参加者の付き添いの方とお話ししていて、普段は介護をやったり時々辛いとか、さぼりたいと思ってしまうこともあると打ち明けてくれました。しかし、このじょっぱり隊に参加すると、似たような状況の方と話すことができるので、自分の気持ちを分かってもらえ、自分も共感することができ、心が軽くなるもおっしゃっていました。また、他の参加者の方が、以前よりも自立度が高くなっていたり、明るくなっていたりすると、私も頑張って支えていこうと、勇気をもらえるとおっしゃっていました。参加者の付き添いの方のお話を聞いて、私はボランティア活動の意義はそこにあると考えました。継続的で、また、自主的で無償性のあるボランティア活動を定期的に行うことで、参加者やその家族につながりが増え、そのつながりが参加者さんたちをエンパワメントしているのではないのでしょうか。…



(運行班) …活動を通して、私はボランティアとは人を笑顔にする手助けだと感じた。今回のボランティアは、2日の送迎から参加者が打ち上げ後のバスに乗り込むまで、おもてなし精神を忘れずに、自分自身も楽しく活動でき、参加者にも楽しみ喜んでもらえてよかったと思いました。ボランティアとは相手に対する思いが大切であると学ぶことができた。これまで高齢者や障害を抱えた人々が祭りに参加するイメージはありませんでしたが、参加者に楽しんでもらいたいという思いで、多くの方が一生懸命準備したり、自分にできることを考えて行動することで、障害があってもなくても変わらず祭りを楽しむことはできると知ることができました。このような活動がさらに広がり、偏見や差別なく、互いに支えあい、助けあう社会になっていってほしいと感じました。

(運行班) …ケア付きねぶたの活動を通して、みんなが一つになれば言葉では表現しがたいほどの感動が生まれるということを知りました。学生や先生、参加者さんが一つとなって熱く燃えたあの夜を私は一生忘れません。立場に関係なくお互いを思いやり、協力し合った結果がケア付きねぶたの成功です。この経験から私は、ボランティアとは奉仕だとか慈善活動だとか言葉にすると難しく聞こえますが、「人を思いやる」たったそれだけのことであるということを知りました。たったそれだけのことが喜びや感動、笑顔へとつながってゆきます。これは素晴らしい事です。私はこのケア付きねぶたから、この先福祉を学んでいく上でとても大切なことを学ぶことが出来ました。学んだことをこれからも常に意識し続けたいと思います。そして来年もケア付きねぶたに参加し、意識を高めていきたいと考えています。





(運行班) …今回の活動を通して、今の私に必要なボランティア精神は「自発性」です。初めてで分からないから何もしないのではなく、初めてで分からないからやって学ぶ、ということが今後の自分の糧になるのだと考えました。参加者の方々と対面してすぐはなかなか話のきっかけが見つからず、戸惑ってしまいました。し

かしながら、自分から進まなければ始まらないと気持ちを切り替えることによって、とても興味深いお話を聞くことができ、うれしかったです。この感覚を忘れないようにしたいと思います。途中で歩み寄ることをやめてしまったら、自分に与えられた機会を手放している事になると考えます。また、私はハネトとして参加してみても、距離が長いと感じました。それにも関わらず、参加者の方々が無事にやり遂げたと聞いて

大変驚きました。障害を抱えながらも意欲的に参加し、最後までやり遂げる参加者の方々の精神は強く、支える家族の力もまたそれ以上に大きいのだと感じました。この活動にかかわった方々のじょっぱり魂には驚かされるばかりでした。

(運行班) …私がこの活動を通じて学んだことは、ボランティアとはともに作り上げていくことなのだという事です。この言葉自体は、今までよく耳にしてきました。しかし、自分自身ではっきりと感じたことは、今まで行ってきたボランティアの中ではありませんでした。今回のケア付きねぶたじょっぱり隊に参加したことによって、してあげる・される関係がボランティアではない事を知りました。心と心同士の温かな触れ合いを、私は感じる事ができたのです。…

(備品班) 私は備品班として活動していたので、参加者さんと直接関わることは少なかったです。しかし、本番終了後の参加者さんや、その家族の方々の生き生きとした表情や、裏方として活動するボランティアの姿から、参加者全員のねぶた祭りにかかる思いの強さを感じました。…

今回の活動を通して強く感じたのは、このじょっぱり隊の活動は、多くの人の支えや様々な協力のもとに成り立っているということです。私たち学生はボランティアとして参加したものの、先生方や一般のボランティアの方々による綿密な前準備がなければ成り立っていなかったと思います。今回のような貴重な経験をすることができてよかったと感じると同時に、対人援助職を目指す自分の力不足を痛感しま





した。これを励みに、今後更にいろいろなことに挑戦していきたいです。



(食料班) 今までの活動を通し、障害は本人の気持ち次第でいくらかでも変わるという認識を持ちました。食べることの難しかった人が、食べることが出来るようになった、いつもよりもとてもいい表情を見せる、体がよく動く、これらのまるで奇跡のようなことをじょっぱり隊は可能にする。将来医療に携わる者として、今まではフィジカル面のケアにどうしても目が向いていたが、これまでに見聞きしてきたじょっぱり

隊の奇跡のような出来事を胸に、メンタル面のケアも積極的に行えるようになりたいと思います。障害を持っていても関係なく、楽しいと思えることに挑戦するように支えていければよいです。その時、食事からもその気持ちを盛りあげられれば良いと考えます。



(食料班) じょっぱり隊は、参加者本人はもちろんその家族にも生きる喜びや勇気などがわき、生きがいを与える活動であると考えます。また、ボランティア同士でも交流の輪が広がり、活動が生活の中に刺激を与えるようになるのではないかと考えました。子どもから高齢者、学生、施設職員など様々な世代や職種の人々が参加することで、世代間の交流が深まり、多くの人と関われる大切な機会であるとも感じました。一人ひとりがしっかり自分の役割を果たし、全員が一つのテーマや目標に向かって活動していくことが、じょっぱり隊の意義なのではないかと考えました。…ボランティアや施設、医療機関、地域など多くの方々の協力と連携で成り立っています。参加者や家族が有意義な一日を過ごせるためには、事前の準備や関係者間の連携、陰で活動するボランティアの力がとても重要となります。今回の経験を大切に、将来医療・福祉の現場で働く者として精進できるよう多くのことを学んでいきたいです。



(着付班) 活動を通して学んだことは、共に楽しむことが大切なのだと感じました。サポートをしてあげる、してもらっているのではなく“青森ねぶたを楽しみたい”との想いでじょっぱり隊の活動が行われて

いました。それがじょっぱり隊の魅力の一つだと思います。「じょっぱりだもの」「じょっぱりだから」の合言葉によって、ボランティアも活動しやすくなるのではないのでしょうか。適当にやるという意味ではなく、力を抜いて楽しむということです。ボランティアが切羽詰まっていたら、参加者は楽しむことができないと思いました。着付け班ということで、参加者と直接かかわることはできなかったのですが、運行の様子を見て、じょっぱり隊に関われたことをとてもうれしく思いました。

(着付け班) じょっぱり隊は自分自身の感性を高めたり、人とのつながりを感じることができる貴重な機会だと感じました。全国各地から参加者が集まるということは、普段生活しているだけでは出会えない人々との出会いがあり、まさに一期一会です…私は今回の活動を通じて、ボランティアとは、一歩前に踏み出す勇気をもって誰かのために行動し、その人々に笑顔をもたらすことだと感じました。その際に黙々と作業をするのではなく、メンバーの人々と協力して行うことが大切だとわかりました。

(設営班) 参加してみて一番感じたことは清風荘の職員やスタッフがみんな一生懸命なことでした。…自分の態度が相手の態度を決めます。さりげない気遣いや優しさや気持ちの良い一生懸命さが、かかわりあう人たちみんなに感染して、参加者もボランティアスタッフも来年もまた来たいかなのではないのでしょうか。ボランティアは自分の思いの押しつけやニーズに沿わない一方的なものでは有難迷惑でしかないですが、必要なことを一生懸命することは必ず周りをもいい方向に巻き込んでいくのだと思います。今回の活動は私にとっては自分が何かをしたというよりも、してもらったという感覚の方が大きい気がしています。優しさを分けてもらって、うれしくて、これをまた誰かに分けたいと感じるものでした。

(設営班) じょっぱり隊はボランティアによって支えられていることを実感しました。班の中での連携はもちろんですが、全体の連携が非常に重要であると感じました。一人ひとりの力は微々たるものかもしれませんが、この力が一つにまとまり作用することで多大な力に代わるということを実感しました。そのためには、自分から積極的に動こうという姿勢や、どんな些細なことでも疑問があったら周囲の人に相談することが大切であることを学びました。また、ねぶたが終わり退陣した時、参加者や家族の方の表情は「やりきった」という笑顔でした。それを見て、障がいがあることや高齢であるということに関わらず、ねぶたに参加するという一つの目標を達成できたという自信は、その人がこれから生きていく上で大きな力になると学びました。





### 【振り返る会各班発表】 1班

(成田都和、小清水兼太、蛭名咲月、坂本千夏、伊多波柚奎)

参加者さんやその家族は、旅行する機会がないことからねぶた祭りの参加を楽しみにしており、参加者さん及び付き添い同士で共通の悩み等話せる場です。活動を通して困ったことは、指示内容がまちまちで情報が錯綜していたこと、お出迎え時立ちっぱなしで疲れた、などがありました。これらについては、自分から進んで分からない事は聞くべきであることや、お出迎えではローテーションを作って交代で対応してはどうかという意見がありました。また、付き添いが介護の相談をできる場を設けたり、備品班は人数が少なかったの学生ボランティアの募集を早めにPRしてはどうかという意見がありました。

今回の活動を通して、参加者さんから元気もらった、自分から積極的に動くことが大切、一般のボランティアと触れあえて勉強になった(大人になってもボランティアをしたい)ことを学びました。

### 【振り返る会各班発表】 2班

(三上ありさ、工藤咲央里、駒込麻衣、細貝和令、荒澤隼、高橋美遥)

参加者さんは普段と違う場所で、また行事に参加することで表情が豊かになり、ご家族はその表情を見ることが嬉しいと言っていました。ねぶたで跳ねる前には参加者さんとボランティアの間に壁があったように思いましたが、跳ねた後は表情が明るく会話はずんで壁がなくなったように見えました。知らない人や周りに大勢いるのが苦手な参加者さんだったので、どう対応して良いか戸惑いました。参加者さんにも付き添い学生の情報を事前に知らせると良いのではないのでしょうか。

今回の活動を通して学んだことは、言語的だけでなく表情やボディタッチなどのコミュニケーションが重要だということです。また、「楽しませる」のではなく、一緒に楽しむものだとことを学びました。

### 【振り返る会各班発表】 3班

(織田彩華、山部由佳、長内知世、又村岬)

参加した方の中には、栃木から初参加で、移動で8時間かかるため長時間座る練習をした方がおり、すごいことだと思いました。ご家族は同じように障害を持っている人のご家族と話せて嬉しいと言っていました。食料班で作った食事をおいしいと言って食べてくれたことが嬉しかったです。しかし少し余ってしまいもったいなかったの、量を少なくしても良かったのではと思いました。運行班ではケア班の担当が分からなかったの、ねぶたが始まる前に一度顔合わせした方がよいのではないのでしょうか。また、初対面の参加者さんとのコミュニケーションが難しかったので、ボランティア養成講座で練習するとか、じょうぱり新聞を皆に配って話題を考えるのも良いと思いました。

普段関わることがない障害者に対する偏見がありましたが、今回の活動を通して認識が変わりました。このような活動は障害を持つ人がみんなの前に出る機会となり、参加者さんやご家族同士の絆が深まることができます。また、自分達ももっと頑張ろうと思いました。

### 【振り返る会各班発表】 4班

(中野里佐、阿部新菜、箕浦彩香、大村真弓)

参加者さんやご家族が楽しんでいる姿から、普段と違う環境でたくさんの人と関わる時間がとても意味のある大切な時間であることが伝わってきました。食料班や設営班は直接の関わりが少なく残念でしたが、裏方で多くの準備や支えがあるから楽しんでもらえることがわかったので、ボランティア同士の協力が大

事だと思いました。

一人でボランティア参加するより、大学として機会があると参加しやすいです。バス送迎や参加者さんの事前情報提供など大学からのサポートが強くなり良かったです。運行終了後にハネトが参加者さんと会えず挨拶できないグループがあったので、変更に合わせて随時連絡が伝わるよう改善してほしいです。

病院実習などとは違い、障害を持ちながら生活している参加者さんと関わる機会や、障害がある人もない人も楽しみや喜びと一緒に共有できる時間が持てたことが自分達にとって大切な経験となりました。「顔色いいですね」と声をかけた参加者から「保健大生に言われると信頼できるわ」と返されて、信頼できるケアを提供できるようになりたいという責任を感じました。

### 【振り返る会各班発表】5班

(関彩也華、加藤貴子、千葉聡子、小林瑞歩、國田忍、福田千春)

運行班として参加者さんと関わってねぶた祭りを楽しみにしていることがわかりました。食料班や備品班は関わりは少ないですが、食事を食べている表情や浴衣の受け渡しの時の笑顔など、ほんの少しでも参加者さんの笑顔に触れることで、裏方も全体で参加者さんを支えていると感じました。実際の活動では、着替えるタイミングの指示や写真撮影の順番など、途中で指示が変更になったり食い違って困ることがありました。改善点として自分達からも指示の理由を確認することが大切だと思いました。また、前年度の学生ボランティアからの説明や、一日の活動内容をビデオで見るなどして、各班の動きの流れを事前に説明会で把握できれば良いと思いました。

初対面の人と会話する緊張感や車いすの操作など、授業で学んでいても実際には難しいことがわかりました。教科書で学ぶだけでなく、ボランティア活動を通して経験していくことが大切だと思いました。

### 【振り返る会各班発表】6班

(角谷美穂、柴崎碧、渡部朋子、敬礼宏子、杉山優、松山優里)

参加者さんもボランティアにとっても、祭りという文化に触れながら楽しんで参加できるこのような活動の輪を、他の地区でも広げていけるとよいと思いました。

改善点として、長い待ち時間に運行班以外でも参加者さんと触れ合う機会を持てるようにすることや、指示変更がすべての班に伝わるための工夫、夕方の食事の配膳が暗くて作業し辛かった点の改善など、参加してみて気づいた点をスムーズにできるよう、次年度に向けて工夫していけると良いと思いました。

ボランティアに参加した理由は一人一人異なっていましたが、それぞれが役割を持って活動することで大きな力が発揮でき、参加者さんに楽しんでもらえることがわかりました。ボランティアからしてあげるというだけでなく、役に立てる喜びを感じ、微笑んでくれるだけで嬉しいと思う、得るものがあるとわかりました。

# プロジェクト関連資料

平成 24 年度ケア付き青森ねぶたじょっぱり隊

## 青森県立保健大学

### 学生ボランティアのしおり

#### 目 次

全体スケジュール	1 ページ
8月3日の動き	2 ページ
8月2日の動き	6 ページ
バス乗車確認表	7 ページ
ボランティア申込み一覧表	8 ページ
ボランティア留意事項	9 ページ
ボランティアの心得【共通】	10 ページ
ボランティアの心得【備品班】	11 ページ
ボランティアの心得【運行班】	12 ページ
ボランティアの心得【設営班】	13 ページ
ボランティアの心得【食料班】	14 ページ
保健大学オリジナルハネト振付	15 ページ
緊急時等の連絡先	16 ページ
活動を振り返る会の案内	17 ページ

#### 全体スケジュール

##### 事前説明会

日時：7月27日（金）17：00～18：00  
 場所：A棟3階 地域・老人看護実習室  
 ・学生ボランティアは全員参加してください。

・事前にこのしおりをよく読み、質問などはこの説明会のときにしてください。

・プライマリケアの担当者を発表します。参加者の情報を伝えますので、各自、筆記用具、メモ用紙を持参してください。

##### ボランティア

8月2日（木）・・・ 6 ページへ  
 8月3日（金）・・・ 2 ページへ

##### 活動を振り返る会

日時：8月21日（火）13：00～16：00  
 場所：A棟1階A112教室  
 ・ボランティアに参加した学生は皆さん参加をお願いします。

#### 決起大会

・次の時間帯は全員参加です。ただし、各班のリーダーから指示があった場合はそれに従ってください。

9:30 ボランティア決起大会(4F県民ホール)

10:45 アトラクション(同)

11:00 結団式(同)

#### 服装

- ・上は、大学Tシャツを着用してください(現地で着替えなし)。
- ・ソックス、スニーカーを履いてくる。
- ・雨天の場合は、雨ガッパなどを各自で用意する。

#### 持ち物

- ・貴重品の管理は各自で行ってください。大金を持ってこない。運行班は浴衣に着替えるので、ポーチなどを持参して各自で貴重品管理をしてください。

#### 休憩(食事)

- ・食事や休憩時間は、タイムスケジュールを参照して各自とってください。ただし、食事や休憩に入るときは、必ず代表学生を通じてリーダーに確認をとってください。
- ・お昼は、4階県民ホール入口でカレーライスを参照して各自とってください。各自受け取って、交流会会場(4階大中研修室)以外の場所で食べてください。
- ・プライマリークアア担当学生は、参加者と一緒に、交流会上の食事をとってください。

#### 着替え(運行班)

- ・運行班は浴衣に着替えます。脱いだ洋服、貴重品以外の荷物は備品班に預けることになるので、大きい荷物などを持ち込まないようにしてください。
- ・浴衣に着替えた後、モーリーのラミネートシートを左胸に貼ってください。
- ・着替えは、教員の指導を受けながら各自で行います(着替え場所:4階県民ホールステージ)。14:00~15:40の間で、各自、手が空き次第、着替えに向かってください。

※ プライマリークアアを担当する学生は、参加者を一人にしないようタイムングを見て着替えに行ってください。

- ・花笠は、青い森公園に移動したら備品班から受け取ります。
- ・退陣後、花笠を青い森公園の回収場所に各自戻してください。
- ・県庁北棟7階、健康福祉部会議室A・Bに行き、自分の荷物を受け取って着

#### 8月3日(金)

##### 集合時間

- ・ライオンズ号、つゆき号、タクシーで移動します。次の時間どおりに集合してください。

集合場所:管理棟正面

バス出発時刻:8:00、8:30

- ※ 各自の集合時刻は、7ページの「8月3日行き」列を参照
- ・ライオンズ号、つゆき号、タクシーを使用しない場合は、前日までに各班の担当教員へ連絡してください。
- ・当日になって使用しないこととした場合は、出発の時刻前までに担当教員へ連絡してください。
- ・定刻で出発しますので、遅れることのないようにしてください。

##### 福祉プラザに到着したら

- ・1階ロビーで待機してください。建物内で仕事中の方などがいますので、私語は控えるようにしてください。
- ・担当教員が出欠確認をします。
- 担当教員 着付班 加賀谷先生、長谷川先生  
食料班 清水先生  
設備班 本間先生  
備品班 福井先生  
運行班(全体) 千葉先生、事務局花田
- ・全員そろったら、担当教員と一緒に各班の集合場所へ向かいます。

##### ボランティア当日の動き

- ・各自、各班心得、タイムスケジュールを確認して動いてください。ただし、タイムスケジュールはあくまでも目安です。実際の行動は、各班のリーダーに従ってください。
- ・各班の代表学生は、各班のリーダーと学生ボランティアの間で連絡のやりとりをしてください。また、確認したいこと、指示を仰ぎたいことがあれば、代表学生に伝えてください。代表学生は、まとめてリーダーに確認してください。

各班代表学生 備品班 大坂 舞  
設置班 敬礼 宏子(8月2日も)  
食料班 佐々木 捺美  
運行班 駒込 麻衣、中野 里佐

替えをしてください。  
 ※ プライマリケアを担当する学生の着替えが優先です。違って参加者が退席してくるので、急いで着替えて青い森公園に戻り、担当の参加者についてください。  
 ・脱いだ衣袋は、1階ロビーに待機している備品班に返却してください。

**移動**  
 ・県民福祉プラザから青い森公園に移動する際は、各班のリーダーの指示に従ってください。  
 ・県民福祉プラザへは戻らないので、自分の荷物をすべて持って移動してください。絶対に忘れ物がないようにしてください。

**体調管理**  
 ・体調が悪くなったら、担当教員に申し出てください。

**緊急連絡**  
 ・体調不良以外にも、困ったことやわからないことがあれば、担当教員に確認、報告等してください。

**解散**  
 ・各班がリーダーの指示により解散したら、各班の担当教員のもとに集合してください。各班が解散しても、勝手に帰らないでください。担当教員が人数確認をします。  
 ・ライオンズ号、つゆき号で大学に戻ります。青い森公園から自分で帰りたい人は、このとき担当教員に申し出てください。  
 ・バスは青い森公園車庫（日本赤十字社青森県支部付近）に停車しています。担当教員の確認を受けた人から順に乗車してください。  
 バス出発時刻 21:00、21:30、22:00  
 ※ 各自の乗車時刻は、7ページ表の「8月3日帰り」列を参照  
 ・大学に到着したら、担当教員の指示により解散となります。

8月3日タイムスケジュール【青森県立保健大学】

時間	全体の動き	備品班 (6)	設置班 (7)	食料班 (14)	着替班 (2)	運行班 (37)
	担当教員	湯井・長門	本間	清水	加賀谷・長谷川	千葉・花田
	集合場所	4F小研修室	4F多目的室4A	5F調理実習室	4F多目的室4A	2F多目的室2A
9:00	集合（県民福祉プラザ）	集合	集合・打合せ	集合・荷降し・打合せ	集合・打合せ	集合
9:30	ボランティア決起大会	決起大会	決起大会	決起大会	決起大会	決起大会
10:00	参加者到着	当日変更備品の準備 参加者入浴〆〆預り	昼食会場設置	炊飯など調理	昼食会場設置	参加者出迎え ①1F②会場 アトラクション
10:45	アトラクション（4F県民ホール）	アトラクション	アトラクション	アトラクション	アトラクション	アトラクション
11:00	結団式（4F県民ホール）	結団式	結団式	結団式	結団式	結団式
12:00	交流会（4F大中研修室）	昼食（指示による）	昼食	昼食会場配膳	昼食	①参加者と食事 ②昼食
13:00	会場設置	浴衣搬入	着替え場所設置	昼食	会場設置	②会場設置補助
13:30	付添い者のハネト練習（4F県民ホール）	各部屋ごとに準備			参加者付添い 流れ確認	②ハネト練習 着替え
14:00	着替え（順次）	個人へ浴衣配布 衣箱の受取 （青い森公園へ移動）	①青い森公園へ移動 ②昼食会場後片 ①テント設置	おにぎり作り ①青い森公園移動 ②調理室掃除	着替え開始	
15:00	写真撮影（順次）	まとめた備品移動				写真撮影
16:00	雨降時は集合写真撮影					出発準備
16:30	※雨天時は16:30出発	荷物トラック積込み 福祉プラザ出発 車椅子・台車の確認	②青い森公園へ移動	軽食配布	着替え終了 会場片付け 解散	福祉プラザ出発 隊列確認
17:00	全員青い森公園到着 隊列確認・軽食					
17:45	集合写真撮影	必要物品降し 北棟へ移動	テント解体 車輪へ積込み 打ち上げ会場設置	軽食後片付け		軽食 待機場所へ移動
18:00	待機場所へ移動					
19:00	北棟で荷物整理			夕食		
19:10	出陣			夕食		出陣
20:00	着替え室準備 着替え室待機 夕食		①トラック内整理 ②食料整理 ③退陣場所確保 打ち上げ参加	打ち上げ料理準備		
20:40	退陣			打ち上げ配膳		退陣
21:00	解散	着替え対応 荷物受け渡し 解散	テント解体 車輪積込み 青い森公園掃除 解散	青い森公園片付け 荷物積込み 解散		打ち上げ参加 着替え 見送り 解散
22:00						

8月2日タイムスケジュール【青森県立保健大学】

時間	全体の動き	担当	設営班 (28)
9:00	ボランティア集合 荷物搬入		集合 物品搬入
10:00		千葉 (福井)	打合せ 各会場設営
11:00			
12:00			昼食
13:00			移動(アネックスへ) アネックス前設営
14:00		福井 (千葉)	
15:00			
16:00	参加者の送迎 荷物搬入		
17:00	歓迎レセプション開始		レセプション参加
18:00			鑑賞場所の確保 鑑賞場所待機
18:30	ねぶた観賞場所へ移動	花田	
19:00			アネックス前復旧
19:10	ねぶた観賞		
20:00	入浴援助		解散

**集合時間**

○ライオンズ号で移動します。次の時間どおりに集合してください。  
集合場所：管理棟正面  
出発時刻：8:00、8:30  
※ 各自の集合時刻は、7ページ表の「8月2日行き」列を参照

**福祉プラザに到着したら**

○1階ロビーで待機してください。  
○担当教員が欠確認をします。  
担当教員：千葉先生、福井先生、事務局花田  
○全員そろったら、担当教員と一緒に集合場所へ移動します。

**ボランティア当日の動き**

○2ページ参照 (代表学生) 敬礼宏子

服装 持ち物 休憩 移動 体調管理 緊急連絡

○3～4ページ参照

**解散**

○4ページ参照  
出発時刻：20:00、20:30  
※ 各自の集合時刻は、7ページ表の「8月2日帰り」列を参照

## ボランティア留意事項

☆ 初対面の合言葉

声高らかに、お願いします。  
「ようこそぞ(青森へ)、ようこそぞ(じよっぱり隊へ)」おもてなしの心を込めて。

☆ 協働の合言葉

上手くできたら、「じよっぱりだから」ね、失敗したときにこそ、「じよっぱりだから」ね、と声に出してみましょう。

◆ 準備を兼ねてきました。予定変更や、ヘアニングは、このよなイベントにつきもの。また情報が出回らず、思うような活動が出来ない、立ち止まってある方も、でもかもしません。真剣であることは、怒り心強に「準備を兼ねてきました、たまたまの出来合いもあるでしょう。でも、せいかくの出会いは大切に、たとえ怒りであってもそのエネルギーは、活動のために向けて欲しいもの。そこで何かトラブルが起きたときの合言葉、「じよっぱりだからね」をこぼれさせ、声に出して言いながら、ストレッチがましまりもせりたり流して、前進してください。希望発表(盛り上げられればすべてよし)を目指し、不具合があったにしても、「じよっぱりだから」で、お願いします。

それは、  
「最高のおもてなし  
ボランティアの調和、  
皆さんの笑顔、  
なんですから。」

## ハネの管轄

1	2	3	4	5
参加者(家族)の中には、車外の方もいます。場所や方言等に不便を感じているときは、丁寧に説明し、誘導しましょう。	付き添いの方がトイレや着替え等で、参加者から離れるとき、しっかりと交替しサボートししましょう。	ねぶたの衣装を着て、オリジナルの振り付けで、運行を盛り上げましょう。	運行中、付き添いの方と役割を交差し、参加者の椅子を押しします。参加者の安全に充分配慮し、変化や危険を感じた時は速やかに報告しましょう。	参加者の皆様は、ねぶたに参加することを楽しみにしています。青森の魅力をたくさん紹介し、青森を満喫していただきますように。

ケア付き調査ねぶたにじよっぱり隊



ケア付き青森ねふた「じょっぽり隊」

## 備品班 心得!

### 備品班

備品班は、ボランティアの方との協力を心がけて、スムーズに荷物の整えや番付ができるように声をかけあってください。

その1	荷物は品小限産にしてください。持ち分からの作業はできません。
その2	8月3日4階工レベーター降りて右手の小研修に集合して下さい。リーダーが受付し、備品班当日の動きを確認します。
その3	それぞれに役割がありますので、体調不良時は、無理をせずに早めにリーダーへの報告をお願いします。
その4	行動する時は、どこに行くのか、伝達し、相手の方行動は控えてください。所在が確認できない時は、あなたを探すごにになります。
その5	分からぬ時は、自分の判断で行動や回答をせずに、すぐにリーダーへ連絡してください。リーダーに不透明は山口へ連絡ください。
その6	14時からの番付の際、着物の不備や質問等分らない時は、その端を離れず、後回しにせず、すぐにリーダーへ連絡してください。
その7	「荷物がなくなっちゃった」等の声が聞かれた時は、一人で行動せずに、そのことを言いきた方の名前を聞き、その場でリーダーへ連絡ください。リーダーがその場に行ってください。

### 8月3日備品班スケジュール

9:00	集合 (県民福祉プラザ)
	打ち合わせ
9:30	ボランティア決起大会
10:45	アトラクション
11:00	結団式
12:00	交流会 (昼食)
14:00	着替え
16:30	出陣場所へ移動 (青い森公園)
19:10	出陣
20:40	退陣・着替え (県庁北棟)
22:00	・打ち上げ・片付け 解散

4階 小研修室にて、受付と打ち合わせをします

9:30には、ホールにて決起大会に参加します

リーダーが、食事状況をみて、昼食の声をかけるので、交代で昼食を摂ります。

13時半には各担当部屋に着物を運び、14時からの番付の準備に入ります。

青森県庁北棟にて、荷物の確認をし、退陣後の着替ができるように準備します。

ケア付き青森ねふた「じょっぽり隊」

## 保健大ボラの皆さんへ 共通心得!

その1	元気に声を出して挨拶を忘れずに！ 各言葉 トラブルがあっても「じょっぽりだものね」 良いことがあれば「じょっぽりだからね」 決して、胸に出さずに、対応してください。
その2	8月3日の集合場所になっている県民福祉プラザには、シャツ・ヘルメット、もしくは公共機関を利用する。自転車・自転車は避けてください。駐車 (降) 場のお世話はできません。(解散場所は、青い森公園のため戻ってこぼくは避けたいため)
その3	一人で解決しようとせず、迷ったら「じょっぽり隊のTシャツ」を着ているボランティアスタッフに相談する。 変更事項が常にあります。何時の時点の指示か、確認のこと。
その4	運行班になっている方は、ソックス・スニーカーを履いてくる。(本来から草履ですが、安全と動きやすさを考慮して)
その5	携帯電話が両に濡れて壊れたいように、ジャブジャブなどの入れ物にいれるなど工夫する。
その6	貴重品の管理は各自で！大金を持ってこぼくは、食事や飲み物はお預けいっしょに持ってこぼくは！
その7	所持品の保管は自己責任です。大事なものは持ってこぼくは、また所持品には記名をすること (着替えがあるので、身に付けるものは、ウエストポーチなどを活用のこと)
その8	体調不良の際は、大学の先生に、申し出て準備してください。

\* 3日の県民福祉プラザでの交流会の会場(4階大中研修室)が、混雑した場合は、ホールやテラスを利用して、食事をしてください。

ケア付き青森ねぶた“じょっぽり隊”

## 設営班 注意事項！

設営班 8月3日集合場所 4F 大中研修室

わからないことがあれば、リーダーへ確認を行ってください。

その1	怪我等には十分注意を、もし怪我・体調不良・事故等の場合にはリーダーへ連絡をお願いいたします。
その2	所持品等については自己管理をお願いします。
その3	8月2日・3日ともに車でのお越しの方は県7号第2駐車場への駐車をお願いします。
その4	8月3日解散予定時刻が22時頃を予定しております。ご都合等ある場合にはその前に帰宅しても構いません。帰宅前にリーダーへの声掛け・連絡をお願いします。
その5	天候等の状況によってスケジュール等が変更があるため、変更があった場合には随時、連絡を行いますので宜しくお問い合わせいたします。
その6	8月3日 交流会から着替えセッティングでの注意事項 大中研修室の仕切りは管理室職員が行います。

### 【8月3日 設営班スケジュール】

9:00	集合 (県民福祉プラザ)
9:30	打ち合わせ 大中研修室で打ち合わせを行います。
9:45	ボランテニア決起大会
10:45	アトラクション
11:00	結団式
12:00	交流会 (昼食)
14:00	着替え
16:30	出場場所へ移動 4F 交流スペースかエントランスにて食事。 交流会終了後、着替えセッティングに変更。 終了後には県民ホールへ移動
19:10	出場
20:40	退陣・着替え (県庁北棟) 1G：県プラ 会場復旧、備品運搬 2G：青い森公園 テント設置
22:00	・打ち上げ・片付け 解散

13

ケア付き青森ねぶた“じょっぽり隊”

## 運行班 心得！

わからないことがあれば、リーダーへ確認を行ってください。

その1	怪我等には十分注意を、もし怪我・体調不良・事故等の場合にはリーダーへ連絡をお願いいたします。
その2	所持品等については自己管理をお願いします。
その3	8月2日・3日ともに車でのお越しの方は県7号第2駐車場への駐車をお願いします。
その4	8月3日解散予定時刻が22時頃を予定しております。ご都合等ある場合にはその前に帰宅しても構いません。帰宅前にリーダーへの声掛け・連絡をお願いします。
その5	天候等の状況によってスケジュール等が変更があるため、変更があった場合には随時、連絡を行いますので宜しくお問い合わせいたします。
その6	8月3日 交流会から着替えセッティングでの注意事項 大中研修室の仕切りは管理室職員が行います。

### 【8月3日運行班スケジュール】

9:00	集合 (県民福祉プラザ)
9:30	打ち合わせ 県民ホールで打ち合わせと陣りの確認を行います
9:45	ボランテニア決起大会 10:00 には参加者と付き添いが会場入りします。ここから3人1組を忘れずに！
11:00	アトラクション
11:00	結団式
12:00	交流会 (昼食)
14:00	着替え
16:30	出場場所へ移動 参加者と付き添いの食事の取り分けをお手伝い、楽しく食べましょう。
19:10	出場
20:40	退陣・着替え (県庁北棟) 付き添いの着替え中は、参加者の身守り。3人1組の着替えが終わったら、ホール舞台で記念撮影！
22:00	・打ち上げ・片付け 解散 参加者・付き添いの花笠や準備カバールの片づけを忘れずに！

\* 退陣後、速やかに、県庁北棟で着替えをし、その後、打ち上げに参加してください。

\* 衣類については、伝統的な着付けで行います。着付け班の指示に従って着用してください。(お題の文が長いことは、了解してください)

12

ケア付き青森ねぶた「じょっぱり隊」

食料班 心得!

その1	必ず手洗いをし、作業に取り掛かりましょう。 むやみに髪など触らず、手指を清潔に保ちましょう。 また、怪我には注意しましょう。
その2	調理道具は使ったら、片付ける。作業台の上は、整理整頓をしながら調理しましょう。 布巾を常備し、汚れは小さいうちに掃除しましょう。
その3	貴重品、所持品の管理は自己責任です。 大事なものを持つてこない。また所持品には記名をす。(身に付けるものは、ウエストポーチなどを活用のこと)
その4	会館駐車場の使用は禁止!!使用できる駐車場は県民福祉プラザ第2駐車場のみです。駐車場のみ世話ほできませんので自転車や公共機関を活用しましょう。(会館事務所への問い合わせ 厳禁)
その5	食中毒感染予防のため、体調不良の際は、必ずリーダーまたは、大学の先生に申し出て下さい。
その6	食材や道具を台車に積みすぎない、荷崩れの恐れがあるので無理に運ばない!! 何かあったら一人で解決しようと思わず、ボランティアスタッフに相談すること。
その7	食事時には、おもてなしの心で、参加者・ボランティアさんに積極的に声をかけましょう!
その8	元気に声を出して挨拶を忘れずに! 合言葉 トラファルがあっても「じょっぱりだものね」 良いことかあれば、「じょっぱりだからね」 決して、顔に出さずに、対応してください。

\* 3日の県民福祉プラザでの交流会(昼食)会場は、4Fイベントラウンズやテラスをご利用してください。

14

ケア付き青森ねぶた「じょっぱり隊」振付 ver 2009 by 保健大学 加藤 千代子

右+左+1歩2歩  
ひみ出して

ラッセラ

2歩に両手  
合せて180°

ラッセラ

右手両+2  
左へ回る

ラッセラ

左+右+1歩2歩  
は40°

ラッセラ

2歩ゆえ  
180°

ラッセラ

左手両+2  
右へ回る

ラッセラ

5/17 4/4拍

左+右+1歩  
右へ回る

ラッセラ

両手2歩回しながら  
立ち上がり、下から上へのはみ

ラッセラ

はみ2歩両手180°  
ハイ、決まホース!!

ラ!!

ニハナラ モーリーモ  
ズミダウ!?

どう、決まホース!  
ちと モーリ  
上がるぞ!!

2009.7.9. 加藤千代子



## ケア付き青森ねぶた「じょっぱり隊」の活動を振り返る会



この会は、ケア付き青森ねぶたが終わった後に、ボランティアの学生の皆さんが、それぞれどのような活動をして、それがどのような形となって参加した方々に提供されていたか、そして喜んでいただいたか、を振り返る会です。

“じょっぱり隊”参加者が青森ねぶたを楽しんでもらう3日間のために、大勢の方が数カ月もの月日をかけて企画・運営に力を注いでいます。

ボランティアとして参加された学生の皆さんは、全体が見えない状況の中、自分にできることを一生懸命やりぬくことと思います。そこでは自分なりに感動したり、ボランティアについて考えを深めたりすると思いますが、それを参加した学生全員で共有することで、自分の活動がどう参加者に届いたのかを知り、新たな感動と、ボランティアについての考え方に広がりが出てくると思います。

また、自分の成長だけではなく、皆さんの声を“じょっぱり隊”の企画・運営に届けることで、次から参加される方やその家族の方々への活動に貢献できたら素晴らしいことと思います。

振り返る会は、青森ねぶた終了約2週間後に開催します。

夏休み中ですが、元気な姿と笑顔で再会できることを楽しみにしています。

日時：8月21日（火）13:00-16:00 \*前期試験追再試対象者発表日です。  
場所：A112 教室

### ープログラムー

- 13:00-13:10 オリエンテーションとグループ分け  
\*グループは、各ボランティア班1名ずつ選出した6、7名で編成
- 13:10-14:30 グループ内での話し合い  
(活動内容、参加者の反応、困ったこと、改善案など)
- 14:30-15:50 各グループ発表
- 15:50-16:00 まとめ



\*参加できない方、質問がある方は8月20日までに [s\\_fukui@auhw.ac.jp](mailto:s_fukui@auhw.ac.jp) または [t\\_honma@auhw.ac.jp](mailto:t_honma@auhw.ac.jp) へメールを送ってください。



アホなハネトン

報告会班（通称：振り返り隊）看護学科教員：本間、福井

17

しょうはり隊おつかれまじました。

市川さんの笑顔がすごくステキでお話し

したり、E-スに写真とたりしたこと覚え

ています。私まで笑顔にはれました。

来年しょうはり隊でお会い

できることを楽しみにしています♡ 荒木千英

さんへ

先日のねぶた祭りでは、大変お世話になりました。最初は緊張して

いましたが、目が合うと微笑んで下さったので、私も自然と笑顔になりました。

一緒に写真も撮ることができて、とても楽しかったです。1日という短い時間

でしたが、本当にありがとうございました。

柴崎 碧

様

先日は、ケア付き青森ねぶたしょうはり隊

に参加して、いかがだったでしょうか？一緒に食べた

お昼ご飯、ほろのおすし、おにぎり、美味しくいただきましたね。ねぶた

衣装に着替えられた今さんは、とてもいい顔をしていらしたのを覚え

ています。今さんとE-さんお話しできて楽しかったです。ありがとう

♡ごさいました。

中野里佐



初めての青森ねぶたはいかがでしたか？皆さんと  
同じ時間を一緒に過ごすことができ、とても嬉し  
かったです。忘れられない思い出をありがとう  
ございました。ぜひまたいらしてください。

どうかお元気で。

齋藤 怜奈

さんへ

ケア付きねぶたでは、ケアする立場にありながら  
福岡さんの笑顔に、逆に元気をもらいました。

一緒に過ごした時間、青森での熱い夜を忘れないで

ください。私も一生忘れません。また青森に来てくだ

さいね！待っています！(^^)！

木下 睦美

## ボランティア参加者一覧

運行班(付き添いグループ)		2日	T	シール	浴衣	花笠	ハッピ	オリエン	報告会	参加費	行き		帰り	
1	保健大学 リポウィッツよし子		1		○	○	た・堤			自	8:30	タ	21:30	タ
2	保健大学 成田正行			1	○	○	た・堤			自	13:30	タ	21:30	徒歩
3	保健大学 ロバートリポウィッツ			1	○	○	提灯			自	13:30	タ	22:00	つ
4	保健大学 ヴィッキーウィリアムズ			1	○	○	提灯			自	13:30	タ	22:00	つ
5	ハネト1 (保健大) 成田都和	迎	1	1	○	○		○	○		8:00	ラ	22:00	ラ
6	ハネト2 (保健大) 佐々木舞子	迎	1	1	○	○		○			8:00	ラ	22:00	ラ
7	ハネト3 (保健大) 蛭名咲月	迎	1	1	○	○		○	○		8:00	ラ	22:00	ラ
8	ハネト4 (保健大) 木村悠花	迎	1	1	○	○		○			8:00	ラ	22:00	ラ
9	ハネト5 (保健大) 石川友李恵	迎	1	1	○	○		○			8:00	ラ	22:00	ラ
10	ハネト6 (保健大) 伊多波袖奎	迎	1	1	○	○		○	○		8:00	ラ	22:00	ラ
11	ハネト7 (保健大) 田島ゆき子	午後	1	1	○	○		○			8:00	ラ	22:00	ラ
12	ハネト8 (保健大) 荒木田千瑛	迎	1	1	○	○		○			8:00	ラ	22:00	ラ
13	ハネト9 (保健大) 高橋美遥	迎	1	1	○	○		○	○		8:00	ラ	22:00	ラ
14	ハネト10 (保健大) 川崎舞子	迎	1	1	○	○		○			8:00	ラ	22:00	ラ
15	ハネト11 (保健大) 工藤咲央里	迎	1	1	○	○		○	○		8:00	ラ	22:00	ラ
16	ハネト12 (保健大) 山部由佳	迎	1	1	○	○		○	○		8:00	ラ	22:00	ラ
17	ハネト13 (保健大) 織田彩華	迎	1	1	○	○		○	○		8:00	ラ	22:00	ラ
18	ハネト14 (保健大) 木田圭子	迎	1	1	○	○		○			8:00	ラ	21:30	つ
19	ハネト15 (保健大) 山田千紘	迎	1	1	○	○		○			8:00	ラ	21:30	つ
20	ハネト16 (保健大) 小笠原千尋	迎	1	1	○	○		○			8:00	ラ	21:30	つ
21	ハネト17 ★(保健大) 駒込麻衣	迎	1	1	○	○		○	○		8:00	ラ	21:30	つ
22	ハネト18 ★(保健大) 中野里佐	迎	1	1	○	○		○	○		8:30	ラ	21:30	つ
23	ハネト19 (保健大) 佐藤綾香		1	1	○	○		○			8:30	ラ	21:30	つ
24	ハネト20 (保健大) 木下睦美		1	1	○	○		○			8:30	ラ	21:30	つ
25	ハネト21 (保健大) 長内愛満		1	1	○	○		○			8:30	ラ	21:30	つ
26	ハネト22 (保健大) 齋藤怜奈		1	1	○	○		○			8:30	タ	21:30	ラ
27	ハネト23 (保健大) 鶴田千翔		1	1	○	○		○			8:30	タ	21:30	ラ
28	ハネト24 (保健大) 西館裕加		1	1	○	○		○			8:30	タ	21:30	ラ
29	ハネト25 (保健大) 佐々木明子		1	1	○	○		○			8:30	タ	21:30	ラ
30	ハネト26 (保健大) 関 彩也華		1	1	○	○			○		8:30	タ	21:30	ラ
31	ハネト27 (保健大) 加藤貴子		1	1	○	○			○		8:30	タ	21:30	ラ
32	ハネト28 (保健大) 角谷美穂		1	1	○	○			○		8:30	タ	21:30	ラ
33	ハネト29 (保健大) 柴崎 碧		1	1	○	○			○		8:30	タ	21:30	ラ
34	ハネト30 (保健大) 箕浦彩香		1	1	○	○			○		8:30	タ	21:30	ラ
のぼり・大うちわ・ 拡声器・給水グループ		2日	T	シール	浴衣	花笠	ハッピ	オリエン	報告会	参加費	行き		帰り	
35	のぼり1 (保健大学院) 鈴木秀樹		1				○				8:30	つ	21:30	ラ
36	隊列 山本春江			1	○	○				自	8:30	タ	22:00	つ
37	のぼり7 藤田修三			1			○			自	13:30	タ	22:00	つ
38	のぼり8 鈴木孝夫			1			○			自	13:30	タ	21:30	徒歩
39	のぼり9 (保健大事務) 高谷憲			1			○			自	13:30	タ	22:00	つ
40	のぼり10 (保健大事務) 前田輝和			1			○			自	16:30	タ	22:00	つ
41	のぼり5 (保健大) 小清水兼太	○	1				○	○	○		8:30	タ	21:00	つ
42	大うちわ2 (保健大) 荒澤 隼	○	1				○	○	○		8:30	タ	21:00	つ
43	給水車 (保健大) 品田沙希		1	1	○	○		○			8:30	タ	21:00	つ
44	給水車 (保健大) 斉藤 文		1	1	○	○					8:30	タ	21:00	つ
45	給水車 (保健大) 千葉聡子	○	1	1	○	○		○	○		8:30	タ	21:00	つ
46	給水車 (保健大) 渡部朋子		1	1	○	○			○		8:30	タ	21:00	つ
47	のぼり6 (保健大事務) 寺田泰二			1			○			自	13:30	タ	22:00	つ
48	医療用リヤカー (保健大先生) 沼田祐子			1	○	○				自	8:30	タ	22:00	ラ
ケア班		2日	T	シール				オリエン	報告会	参加費	行き		帰り	
49	(保健大先生) 伊藤幸嗣			1						自	8:30	タ	22:30	タ
50	(保健大先生) 手塚祐美子			1						自	8:00	つ	22:30	タ
備品班		2日	T	シール				オリエン	報告会	参加費	行き		帰り	
51	(保健大) 小林瑞歩	○	1					○	○		8:00	つ	21:00	ラ
52	(保健大) 杉山 優	○	1					○	○		8:00	つ	21:00	ラ
53	(保健大) 伊澤菜美			1				○			8:00	つ	21:00	ラ
54	(保健大) 三上ありさ			1				○	○					
55	★(保健大) 大坂 舞			1				○						
56	(保健大) 坂本千夏			1				○	○		8:00	つ	21:00	つ



## ケア付きねぶたプロジェクトの活動概要

5月 18日（金） 16時～17時 20分	第1回プロジェクト会議開催
6月 8日（金） 14時 10分～16時 10分	第2回プロジェクト会議開催
7月 9日（月） 10時 10分～12時 10分	第3回プロジェクト会議開催
7月 17日（火） 17時～20時 10分	第4回プロジェクト会議開催
7月 25日（水） 16時～18時 15分	第5回プロジェクト会議開催
8月 8日（水） 12時 30分～13時 50分	第6回プロジェクト会議開催
10月 22日（月） 13時～	第7回プロジェクト会議開催

### ① オリエンテーションの実施

7月 21日（土） 12時から、ボランティア参加学生対象のオリエンテーションを開催し、しおりの配布・説明、班分け・役割の確認、連絡系統の確認等を行いました。

### ② 事前説明会の実施

7月 27日（金） 17時から、ボランティア参加学生・教職員を対象とした事前説明会を開催しました。学生からは、事前に配布したしおりをもとに質問を受け付けたり、教職員には当日スケジュール等について説明しました。

### ③ 着付け指導

7月 27日（金） 18時から、着付け指導を受けました。実行委員会から着付班の方をお呼びして、ハネト衣装の着付けを教わり、今後の記録のために撮影も行いました。

### ④ しおりの作成

学生ボランティアのしおりを作成し、スケジュール調整、移動経路等の調整、留意事項、緊急連絡先等を収めました。

### ⑤ バスの手配

8月2日、3日ともに、ボランティアに参加する学生・教職員の移動手段を確保するため、大学のマイクロバス、タクシーを手配し、ピストン移動などの調整を行いました。

### ⑥ ボランティア募集

6月から7月までの間で、ポスター、チラシ、掲示板、会議での周知等を図り、ボランティアを募集しました。実行委員会からの要請により、人手が足りない班へは、ボランティア参加してもらうよう直接依頼しました。

### ⑦ プロジェクト委員の参加

8月2日、3日ともに、プロジェクト委員が各班の担当者となり、円滑にボランティア活動を行えるよう、実行委員会と学生・教職員との橋渡し役をしました。また、各班にプロジェクト委員が配置することで、万一のときの連絡体制がとてもスムーズでした。

### ⑧ ボランティア養成講座の実施

6月9日（土）に第1回ボランティア養成講座、7月21日（土）に第2回ボランティア養成講座を開催しました。

### ⑨ サークル発表の調整

本学の音楽系のサークルに直接声掛けをするほか、顧問にも依頼して発表してもらう



サークルの調整を行いました。

⑩ 提灯・たすきの作成

保健大学の名前を入れた提灯とたすきを、菱友会に協力いただき作成しました。

⑪ 学生の識別

活動当日、たくさんのボランティアの中で本学の学生を識別できるよう、参加ボランティア学生全員に、本学オリジナルTシャツを配付しました。また、2日間通して参加する学生や、運行班で浴衣に着替える学生、教職員には、防水加工したステッカーを作成、配布しました。

⑫ 医師・看護師の派遣

実行委員会からの要請により、医師1名、看護師1名を派遣しました。

⑬ ラジオ出演

学生がラジオ出演するにあたり、出演学生の選抜、収録日時の調整等を行いました。

⑭ プライマリー・ケア担当学生

実行委員会と協力し、プライマリー・ケアを担当する学生には、事前に参加者情報を確認させ、自分が担当する参加者さんについて知ってもらいました。

⑮ カメラマン

実行委員会付きのボランティア・カメラマンの参加が不可となったため、本学が委託する広報カメラマンに撮影を依頼しました。

⑯ 活動を振り返る会

8月21日（火）に、今年度初めて、活動を振り返る会（報告会）を開催しました。

⑰ 思い出レター

プライマリー・ケアを担当した学生に、自分が担当した参加者さんにあてた思い出レターを作成してもらい、実行委員会に届けました。

平成 24 年度

地域連携科委員会部会 ケア付きねぶたプロジェクト

看護学科	准教授	千葉	敦子
	講 師	福井	幸子
	助 教	本間	ともみ
理学療法学科	助 教	長門	五城
社会福祉学科	助 教	加賀谷	真紀
	助 教	長谷川	真理子
栄養学科	講 師	清水	亮

事務局

地域連携推進課 主 事 花田 理江

発行：ケア付きねぶたプロジェクト

平成24年10月